



2020年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年8月6日

上場会社名 井村屋グループ株式会社
 コード番号 2209 URL <https://www.imuraya-group.com/>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中島 伸子

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長 (氏名) 富永 治郎

TEL 059-234-2146

四半期報告書提出予定日 2019年8月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	9,072	1.4	268		257		125	
2019年3月期第1四半期	9,205	1.4	46		17	47.2	90	

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 139百万円 (%) 2019年3月期第1四半期 16百万円 (56.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	9.60	
2019年3月期第1四半期	6.90	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	33,912	15,384	45.2
2019年3月期	34,676	15,798	45.5

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 15,313百万円 2019年3月期 15,769百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		24.00	24.00
2020年3月期					
2020年3月期(予想)		0.00		24.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	22,800	3.7	1,000	6.7	1,070	2.3	900	2.9	68.78
通期	46,800	3.8	1,650	16.8	1,750	12.0	1,280	1.9	97.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期1Q	13,086,200 株	2019年3月期	13,086,200 株
期末自己株式数	2020年3月期1Q	1,189 株	2019年3月期	1,118 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期1Q	13,085,047 株	2019年3月期1Q	13,085,182 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米中貿易摩擦の拡大や世界経済の不確実性などにより、先行き不透明な状況で推移しました。

菓子・食品業界におきましても、消費動向は予断を許さない状況の中、企業間競争の激化に加え、原材料価格やエネルギーコストが上昇し厳しい経営環境が続きました。

このような状況のもと、当社グループは、中期3カ年計画「新・維新 Next Stage 2020」の2年目を迎え、5つの目標 ①自己成長と共育の融合への挑戦 ②全員がマーケター ③イノベーションの絶え間ない挑戦 ④「利益＝売上－コスト」の基本算式を忘れない ⑤健康経営の推進 に向けて着実な一歩を踏み出し、更にサステナブルな成長を目指して事業活動を開始しました。また、2019年4月1日付けで井村屋グループの新会社として設立した井村屋スタートアッププランニング株式会社「I-SUP」も国内外で新たな事業の起業化に向け活動を進めております。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、国内及び中国の調味料事業が順調に推移しましたが、流通事業においては夏物商品の売上が減少しました。その結果、連結売上高は、前年同期比1億33百万円(1.4%)減の90億72百万円となりました。

コスト面では、継続した生産性向上活動やSCM効果により人件費や物流費の削減が図られましたが、主要原料の小豆を筆頭に原材料費やエネルギーコストが引き続き上昇し、厳しい経営環境となりました。また、冷蔵商品の最盛期に向けたプロモーションの早期実施により広告宣伝費が増加しました。その結果、営業損失は2億68百万円(前年同期は46百万円の営業損失)、経常損失は2億57百万円(前年同期は17百万円の経常利益)となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億25百万円(前年同期は90百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益)となりました。

各セグメントの概況は次のとおりであります。

① 流通事業

菓子カテゴリーでは煮あずき製法を活用した商品が順調に推移し、冷蔵カテゴリーでは「やわもちアイス」シリーズの売上が増加しました。しかし、各カテゴリーで夏物商品の売上が伸び悩みました。その結果、流通事業の売上高は、前年同期比3億38百万円(4.3%)減の75億40百万円となり、セグメント利益は前年同期比1億79百万円(82.8%)減の37百万円となりました。

流通事業におけるカテゴリー別の概況につきましては以下のとおりです。

(菓子カテゴリー)

「ようかん類」の売上が伸長し、防災用商品として好評をいただいている「えいようかん」は一般社団法人 防災安全協会より「災害食大賞[®]2019」アレルギー対応部門において銀賞を受賞いたしました。「どら焼」シリーズや冷凍和菓子も順調に推移しましたが、夏物商品の「水ようかん」の売上是減少しました。その結果、菓子カテゴリーの売上高は、前年同期比82百万円(5.2%)減の15億22百万円となりました。

(食品カテゴリー)

「お赤飯の素」が順調に推移しましたが、「氷みつ」や業務用商品の売上が減少しました。その結果、食品カテゴリーの売上高は前年同期比1億52百万円(9.6%)減の14億43百万円となりました。

(デイリーチルドカテゴリー)

「豆腐類」では「美し豆腐」やその他の業務用商品が堅調に推移しました。その結果、デイリーチルドカテゴリーの売上高は、前年同期比0.3%増の2億41百万円となりました。

(冷菓カテゴリー)

冷菓商品は苦戦したものの、新商品「やわもちアイス Fruits メロン&バニラ」「BOXやわもちアイス(つぶあんミルクカップ)」を発売し、「やわもちアイス」シリーズの売上が増加しました。米国でアイス事業を展開しているIMURAYA USA, INC.では、8月に予定している大手量販店の販売キャンペーンに向け着実に準備を進めるとともに、新規販売ルートの開拓に取り組みました。しかし、国内では天候要因の影響もあり、主力商品の「あずきバー」シリーズが伸び悩みました。その結果、冷菓カテゴリーの売上高は前年同期比1億72百万円(4.8%)減の34億16百万円となりました。

(点心・デリカテゴリー)

4月～6月は「肉まん・あんまん」などの「点心・デリ」カテゴリーの需要が減少する期間ですが、コンビニエンスストアでのスチーマー販売が好調に推移しました。その結果「点心・デリ」カテゴリーの売上高は前年同期比44百万円(6.1%)増の7億73百万円となり、シーズンに向け期待がもてる状況となっています。

(スイーツカテゴリー)

スイーツカテゴリーでは、「Anna Miller's(アンナミラーズ)高輪店」が堅調に推移しました。「JOUVAUD(ジュヴォー)」では、前期、京都に出店した「La maison JOUVAUD(ラ・メゾン・ジュヴォー)京都祇園店」、「La maison JOUVAUD(ラ・メゾン・ジュヴォー)JR京都伊勢丹店」が順調に推移しています。「La maison JOUVAUD(ラ・メゾン・ジュヴォー)KITTE名古屋店」においても特長あるメレンゲ菓子の「生ロカイユ」がテイクアウト商品として引き続き人気を集めております。また、「La maison JOUVAUD(ラ・メゾン・ジュヴォー)広尾店」は店舗リニューアルを行い、7月28日にリニューアルオープンしました。更なるお客様へのサービス向上に取り組んでまいります。

特色ある“アイスクリーム和菓子”を販売している「和涼菓堂 京都店」も、好評をいただき、順調に推移しました。その結果、スイーツカテゴリーの売上高は、前年同期比24百万円(20.6%)増の1億42百万円となりました。

② 調味料事業

国内では井村屋フーズ株式会社のシーズニング事業において、新規顧客獲得やお客様ニーズに対応した商品提案に取り組み、OEMとともにODM(Original Design Manufacturing)の売上が増加しました。中国での調味料事業では、北京京日井村屋食品有限公司(JIF)の商品提案が順調に進み、中国国内で売上が伸長しました。また、生産拠点である井村屋(大連)食品有限公司(IDF)では製造コスト低減が図られました。その結果、調味料事業の売上高は、前年同期比2億5百万円(16.1%)増の14億75百万円となり、セグメント利益は前年同期比28百万円(42.9%)増の93百万円となりました。

③ その他の事業

イムラ株式会社が行っているリース代理業は堅調に推移しました。また、井村屋商品のアウトレット販売を行っている「MOTTAINAI屋」は、地域住民の皆様から引き続き好評をいただきました。本社所在地である三重県津市の近鉄津駅構内に出店している「imuraya Sweets Shop irodori」は特色のあるスイーツ商品を中心に販売し、人気を得ております。また、本社近隣のイオンスタイル津南に出店している「ソフトアイスクリーム&スイーツ店WaiWai(ワイワイ)」では新商品を発売し、最盛期の夏場に向けお客様満足の向上に取り組んでおります。井村屋グループ株式会社の賃貸事業を加えた、その他の事業の売上高は56百万円となり、新規店舗出店による固定費が増加し、セグメント損失は15百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は339億12百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億64百万円の減少となりました。流動資産は、夏物商品の最盛期に対する供給体制を確実にするための製品在庫の増加があった一方で、設備投資の支払いに伴う現預金の減少及び売掛金の回収による減少などにより、8億84百万円減の138億79百万円となりました。固定資産は、AZUKI・FACTORYへの設備導入による計上もあり、1億21百万円増の200億27百万円となりました。

負債は185億27百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億50百万円の減少となりました。流動負債は、AZUKI・FACTORYの建設費用の支払いに伴う未払金の減少などにより、2億18百万円減の163億85百万円となりました。固定負債は、長期借入金及びリース債務の減少により、1億31百万円減の21億42百万円となりました。

純資産は配当金の支払いなどにより、4億14百万円減の153億84百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末45.5%から45.2%へ減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期に向けて、夏場の主力商品である「あずきバー」の売上増加など、順調に推移する見込みであり、また、冬場の加温商品の導入計画も順調に進捗しておりますので、2019年5月9日付の「2019年3月期決算短信」において公表いたしました業績予想につきましては現時点では変更はありません。

ただし、景気の停滞や世界的な経済状況の変動、原材料の高騰などの環境変化によって業績予想の修正が必要であると判断される場合は、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,718,520	1,742,507
受取手形及び売掛金	7,585,313	6,767,572
商品及び製品	2,890,779	3,446,250
仕掛品	261,246	300,163
原材料及び貯蔵品	595,051	635,960
その他	714,873	989,309
貸倒引当金	△1,411	△2,059
流動資産合計	14,764,374	13,879,703
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	16,342,176	16,548,806
減価償却累計額	△8,774,624	△8,881,179
建物及び構築物(純額)	7,567,552	7,667,626
機械装置及び運搬具	15,667,805	16,035,101
減価償却累計額	△11,734,623	△11,954,936
機械装置及び運搬具(純額)	3,933,181	4,080,165
土地	4,283,842	4,244,796
その他	2,458,109	2,437,360
減価償却累計額	△1,218,402	△1,280,038
その他(純額)	1,239,707	1,157,321
有形固定資産合計	17,024,284	17,149,909
無形固定資産		
その他	134,477	133,021
無形固定資産合計	134,477	133,021
投資その他の資産		
投資有価証券	1,706,103	1,629,554
退職給付に係る資産	380,123	454,840
その他	686,206	685,430
貸倒引当金	△25,061	△25,061
投資その他の資産合計	2,747,372	2,744,764
固定資産合計	19,906,133	20,027,694
繰延資産	6,178	4,656
資産合計	34,676,685	33,912,054

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,687,951	2,523,233
電子記録債務	2,098,401	1,832,984
短期借入金	6,350,000	7,700,000
1年内返済予定の長期借入金	383,987	366,947
未払金	3,434,437	2,327,576
未払法人税等	189,406	64,247
賞与引当金	556,494	334,841
役員賞与引当金	30,000	-
その他	873,588	1,235,771
流動負債合計	16,604,266	16,385,601
固定負債		
長期借入金	366,648	308,326
引当金	24,612	22,836
退職給付に係る負債	101,495	75,244
資産除去債務	94,455	94,637
その他	1,686,739	1,640,961
固定負債合計	2,273,950	2,142,005
負債合計	18,878,216	18,527,607
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,576,539	2,576,539
資本剰余金	3,808,553	3,808,553
利益剰余金	7,218,890	6,806,504
自己株式	△2,359	△2,534
株主資本合計	13,601,623	13,189,062
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	42,277	△17,879
繰延ヘッジ損益	41	-
土地再評価差額金	1,969,729	1,942,471
為替換算調整勘定	11,523	16,985
退職給付に係る調整累計額	144,364	182,915
その他の包括利益累計額合計	2,167,937	2,124,493
非支配株主持分	28,908	70,890
純資産合計	15,798,469	15,384,446
負債純資産合計	34,676,685	33,912,054

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	9,205,414	9,072,361
売上原価	6,403,271	6,422,565
売上総利益	2,802,142	2,649,796
販売費及び一般管理費	2,849,042	2,918,524
営業損失(△)	△46,899	△268,727
営業外収益		
受取配当金	29,609	25,433
受取家賃	10,719	10,606
為替差益	22,734	-
その他	12,574	13,907
営業外収益合計	75,636	49,946
営業外費用		
支払利息	10,508	7,709
為替差損	-	26,082
その他	421	4,516
営業外費用合計	10,930	38,308
経常利益又は経常損失(△)	17,806	△257,088
特別利益		
補助金収入	4,485	139,188
特別利益合計	4,485	139,188
特別損失		
固定資産除却損	39	1,367
減損損失	-	39,046
特別損失合計	39	40,414
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	22,253	△158,314
法人税、住民税及び事業税	37,924	40,666
法人税等調整額	△106,001	△75,222
法人税等合計	△68,077	△34,555
四半期純利益又は四半期純損失(△)	90,330	△123,759
非支配株主に帰属する四半期純利益	68	1,843
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	90,261	△125,602

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	90,330	△123,759
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△60,439	△60,156
繰延ヘッジ損益	-	△41
為替換算調整勘定	△4,031	5,601
退職給付に係る調整額	△9,363	38,550
その他の包括利益合計	△73,834	△16,046
四半期包括利益	16,495	△139,805
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	16,999	△141,787
非支配株主に係る四半期包括利益	△504	1,982

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,879,135	1,270,415	9,149,550	55,864	9,205,414
セグメント間の内部売上高 又は振替高	24,179	11,195	35,375	1,689	37,065
計	7,903,315	1,281,611	9,184,926	57,553	9,242,480
セグメント利益	216,457	65,440	281,897	5,742	287,640

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	281,897
「その他」の区分の利益	5,742
全社費用(注)	△334,540
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△46,899

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,540,664	1,475,460	9,016,124	56,237	9,072,361
セグメント間の内部売上高 又は振替高	24,971	16,496	41,468	1,227	42,696
計	7,565,636	1,491,957	9,057,593	57,464	9,115,058
セグメント利益又は損失(△)	37,245	93,518	130,764	△15,416	115,347

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	130,764
「その他」の区分の利益	△15,416
全社費用(注)	△384,074
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△268,727

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「その他」セグメントにおいて、土地の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては39,046千円であります。